

近畿大学 工学部
令和 7 年度 自己点検・評価報告書

数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎
プログラム（工学部）

令和 8 年 4 月

1. 自己点検・評価の実施

工学部にて実施している「数理・データサイエンス・AI 教育応用基礎プログラム（工学部）※」について、工学部・大学院システム工学研究科自己点検評価委員会が自己点検・評価を行った。

2. 自己点検・評価の対象科目

本プログラムを構成している科目のうち令和7年度に開講された科目を自己点検・評価の対象科目とした。

「線形代数学Ⅰ」

「微分積分学Ⅰ」

「微分積分学Ⅱ」

「データリテラシー入門」

「データサイエンス特講」

「データサイエンス実習」

「プログラミング特講」

「化学生命工学概論」

「化学実験」

「生物工学実験」

「応用情報処理Ⅰ」

「物質化学実験」

「化学生命データサイエンス」

「確率統計学」

「プログラミング」

「機械工学基礎実験Ⅱ」

「計測工学」

「プログラミング基礎」

「プログラミングⅠ」

「プログラミングⅡ」

「人工知能」

3. 点検項目と評価

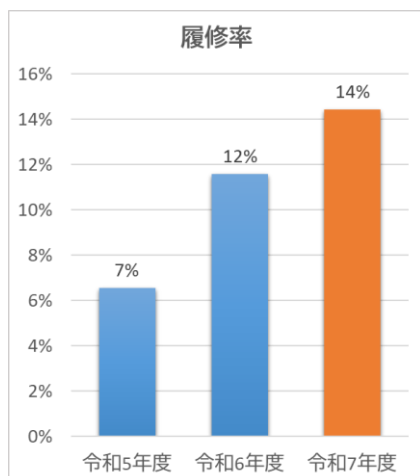
実施しているプログラムについて、以下の項目で自己点検・評価を行った。

- ・履修、修得状況
- ・学修成果
- ・学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ・修了者実績

4. 自己点検・評価結果

①履修・修得状況

学部名	学生数 R7.5.1現在	入学定員	収容定員	履修者数	修了者数	履修率 (履修者数/収容定員)
工学部	2,309	545	2,180	333	0	14%



令和7年度における本教育プログラムの履修状況について、履修率は全学生ベースで14%となり、令和6年度の12%から2ポイント上昇した。

一方、プログラムの主な履修対象である令和5～7年度入学生に限定した履修率は18%で、前年度の22%から4ポイント減少している。令和7年度より一部学科において、専門科目の必修科目内で修了要件の多くを満たせるようカリキュラム構成を見直したことにより当該学科では履修率の向上が見られたが、他学科では履修の伸びが限定的であり、学科間で差が生じている。本年度は初めて修了者を輩出し、プログラムとして一定の成果が確認できた一方で、履修対象学生ベースでは履修率が低下していることから、履修促進に向けた継続的な改善が必要である。

今後は、履修対象学生への早期周知の強化や履修モデルの明確化等により履修しやすい環境整備を進め、履修率のさらなる向上を図る。

今後は、履修対象学生への早期周知の強化や履修モデルの明確化等により履修しやすい環境整備を進め、履修率のさらなる向上を図る。

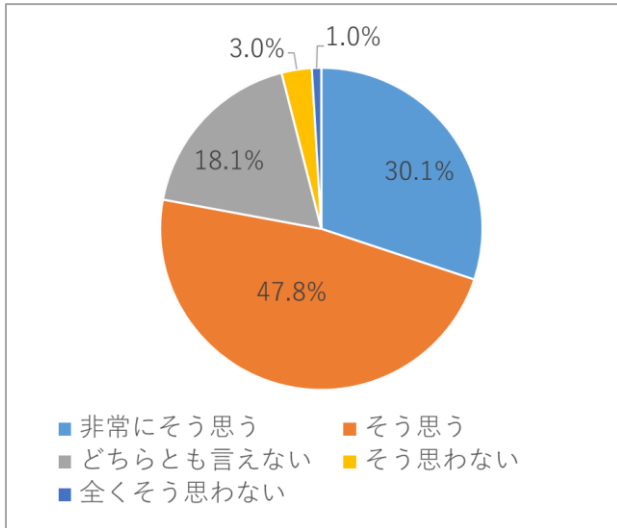
②学修成果

各科目の到達目標は、シラバスにて具体的に明示したうえで、目標の習熟度について、適宜小テストやレポート課題、定期試験を実施することによって確認した。また、授業評価アンケートを実施し、授業内容の理解度の把握を行った。

この結果を教育システム改善委員会、教務委員会と連携し、プログラムの改善・進化の検討に活用する。

③学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

【設問内容】この授業を受けることで、自分の知識や考えが深まりましたか。				
非常にそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない
30.1%	47.8%	18.1%	3.0%	1.0%



工学部では「授業評価アンケート」の設問において、授業ごとの理解度やシラバスの学修到達目標の達成度を把握している。

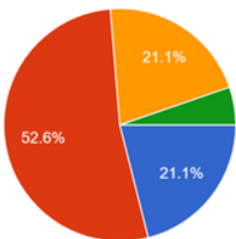
令和7年度実施した科目において受講者の47.1%からアンケートの回答を得た結果、授業を受けることで自分の知識や考えが深まったかの問いに対し、「非常に思う」と回答した学生が30.1%となった。「思う」と回答した学生47.8%を含めると、肯定的な意見が77.8%と非常に高い割合となった。今後は、到達目標の達成度が相対的に低かった科目において学修支援を充実していく必要がある。

④修了者実績

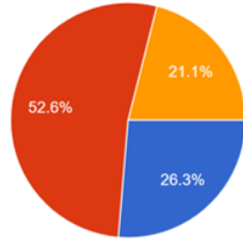
学部名	学期	学科名	学年	修了者数	修了者数合計
工学部	前期	電子情報工学科	3	17	21
		ロボティクス学科	3	4	
	後期	化学生命工学科	3	20	24
		電子情報工学科	3	4	
	合計				

【プログラム修了者アンケート】

本プログラムの学修目的は身についたと思いますか。



プログラム全体の満足度を教えてください。



令和7年度は本プログラム初の修了者を輩出し、前期21名、後期24名、合計45名が修了した。修了対象者146名に対する修了率は30.8%であった。修了者には修了証を授与し、授与式を実施することで、プログラム修了の成果を学内外に共有することができた。

前期修了者に対して実施したアンケートでは、学修目標の達成について63.7%、プログラム全体の満足度について73.7%が肯定的に回答し、概ね良好な評価が得られた。一方で、修了に至ら

なかった学生も一定数存在しており、履修継続支援や修了要件達成に向けた支援体制の強化が今後の課題である。今後は、履修計画の早期提示や周知の充実を図り、修了率および教育効果のさらなる向上を目指す。

以上